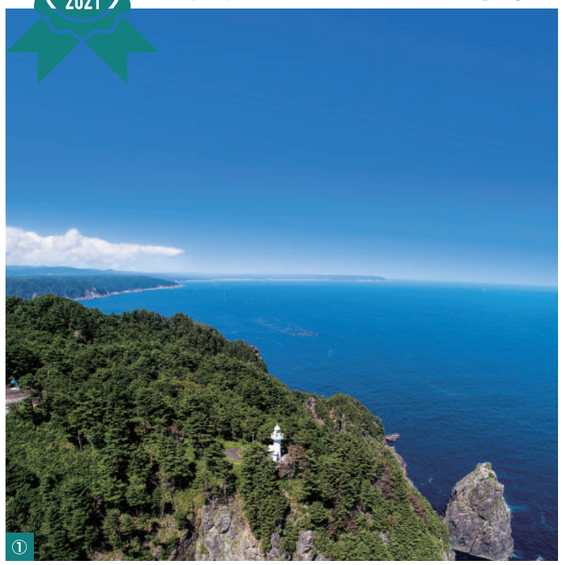
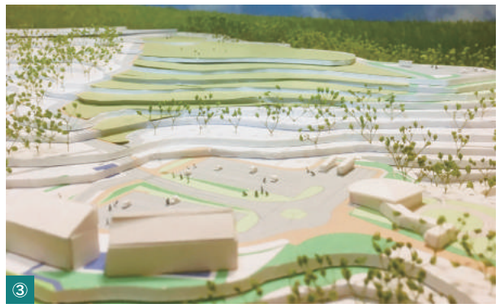
CLA Award 2021

奨　励　賞





①対象地周辺の様子　②コンテンツの一つ、普代「きらうみ」のビーチヨガ　③共通理解促進のための対象地周辺模型　④見晴らしテラスの計画断面

黒崎園地利用拠点計画策定支援業務

株式会社総合設計研究所　東北事務所
大瀧英知・大石佳奈

黒崎園地は岩手県下閉伊郡普代村の沿岸部に位置する三陸復興国立公園の一部で、高さ 100 メートルを超える海成段丘面からは直前に広がる雄大な段丘崖の連続と海の青、空の青とを楽しむことができる。

本業務では国立公園を取り巻く景観悪化の課題と変化する旅行ニーズへの対応の必要性などを背景に、景観形成とマネージメントの両面に及ぶ総合的な利活用計画の策定を支援した。

村の人口が約 2,500 人と少ないことからも観光と村の持続性とのつながりを重要視し、協議会やワークショップでは村民や村内事業者の意見を積極的に募った。ハード整備では引き算の景観形成を軸に利用拠点である「くろさき荘」周辺および室内外の上質化計画を立案、ソフト面では着地型観光組織（地域発着の観光商品を開発する組織）の形成に向けた取り組みをすすめることを策定した。

主な取り組み

協議会、住民ワークショップ、サウンディング調査を行った上で、観光客や地域の方が持続可能なものとして実行可能な利用拠点計画の策定を行った。

作品概要

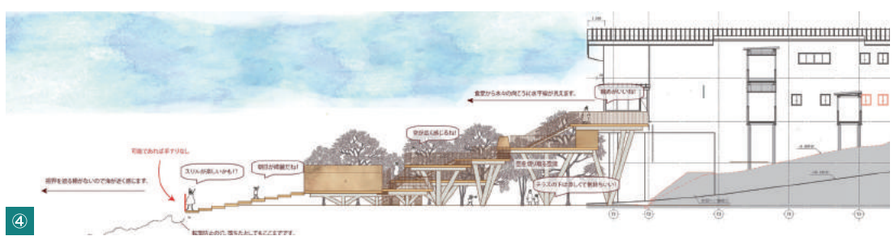
業務名――　黒崎園地利用拠点計画策定支援業務
発注――　岩手県普代村（環境省）
事業期間――　2020年4月～2021年3月
対象地――　岩手県下閉伊郡普代村黒崎園地
規模――　約5ha
主要施設――　国民宿舎くろさき荘・黒崎園地
事業目的――　国立公園である黒崎園地およびその利用拠点である国民宿舎くろさき荘の利便性と満足度の向上を図ること。
協働者等――　東京大学森林風致計画学研究室（山本清龍准教授）・株式会社青の国ふだい・NPO法人みちのくトレイルクラブ・クラブツーリズム株式会社・普代村観光協会・普代村商工会青年部・有限会社カネシメ水産・日本財団 海と灯台プロジェクト・公益財団法人さんりく基金 三陸DMOセンター・（有）ノルムナルオフィス（デザイン協力）

作品表

普代村は岩手県北部の三陸海岸に面する海と山との自然に恵まれた自治体である。「国民宿舎くろさき荘」を拠点として国立公園黒崎園地の景観形成を計画し、さらに普代村の観光振興マネジメントを計画した。国立公園の経営手法の検討に取り組んだ仕事である。業務のプロセスは、現地調査に基づく実態把握、民間事業者へのサウンディング調査、先進事例調査、観光地域団体・大学有識者・DMO・民間事業者・村担当者による協議会を踏まえて提言を取りまとめ、さらにこの提言をもとに管理運営の可能性を探るためのサウンディング調査を経て、「黒崎園地利用拠点計画」を策定した。

地域資源を丹念に掘り起こして、空間を整備し、観光資源を磨きあげてブランド化する方策と、推進する仕組みを導いた力作である。

計画を作ったことで本業務は完了した。ご苦労をねぎらいたい。黒崎園地の利用促進事業は再スタートしたが、今後は、事業の実現に向けてこれからも長くかかわっていただきたい。陰ながら応援したいと思う。



④

CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA賞選考委員長　**阿部 伸太**

CLA 賞は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたもので、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが行った仕事をプロが評価し、優秀なものを表彰するというシステムに特徴があります。

同時に、応募者は自己が実施した業務の成果について、改めて応募資料という形に取りまとめるため、個々の業務の再チェック、すなわち品質保証の一翼を担うという面からも、機能するものでもあり、また、今後の業務展開につなげることが期待できると考えます。

応募作品の募集は、例年に従い、4 月上旬から始め、7 月末を期限として行いました。その結果「設計」「調査・計画」「マネジメント」という 3 分野で、9 社から 15 作品の応募となり、積極的な応募を頂き、かなり増えたという結果でした。応募くださった皆様には厚く御礼申し上げるとともに、会員各社ならびに技術者皆様のより一層の研鑽を期待する次第です。

今年度応募された作品は、いずれも力作ぞろい、また COVID-19 の状況下において多くの応募があったことは感謝いたします。その内容をみると都心におけるビル開発におけるオープンスペースや、公園の改修に真摯に、そして丁寧に取り組まれたものから、復興住宅地やキャンパスのオープンスペースの設計など、ランドスケープの分野が確実に拡大していることを実感できるものとなりました。各委員は、事前に配布された応募作品の資料に対して募集要綱に示された「設計」「調査・計画」「マネジメント」部門毎に、それぞれ 5 つの視点から評点を付け、選考会当日に集計しました。

選考会では、こうした集計結果を参考として、改めて各作品毎に賞を付すにふさわしい作品か否かについて討議し、最優秀賞 1 作品、優秀賞 6 作品、特別賞 1 作品、奨励賞 1 作品を選出いたしました。最優秀賞の作品は、ランドスケープ作品として秀逸で、選考委員全員の一致した意見で決まりました。特別賞は、オリンピック開催年という時代性を反映した作品として特別賞となりました。また、奨励賞は、地域おこしに丁寧に取組まれた作品で、今後共こうした方向性の業務拡大を支援するという意味から奨励賞となりました。

年々、提出されるプレゼンテーション資料の質、特に「調査・計画」「マネジメント」部門においても向上しており、今年もこの傾向は顕著に確認されました。社会や他分野の人々に対して、ランドスケープの関わりによるプロジェクトへの影響の点でのアピールが強く求められ、業務の中でランドスケープが果たした役割が明瞭に示されたものが高く評価されました。このことは、プロジェクトの初めの段階に造園家が関わることの重要性を社会へ発信すると共の業界としての再認識にもつながることと期待します。また、今後はランドスケープが関わったことによる運営の活性化や地域おこしなど、マネジメント分野に対する期待も議論されました。

選から漏れた作品も、ランドスケープの技術を駆使して、社会的課題を解決する、そうした姿勢が表れていました。差が出た部分は、大半がプレゼンテーション部分です。やはり、コンセプトやプロセスに係わる部分が、丁寧に、かつ解りやすく表現されたものが優位に評価されました。

社会に対してランドスケープという職能を如何にアピールするか？　その答えは、こうした良質なランドスケープ作品を世に送り出し続けることだと考えます。CLA 賞はそうした意味からも、単なる顕彰制度にとどまらず、ランドスケープコンサルタントの技術力向上に繋がるとともに、社会へアピールする材料として活用されることも含め、会員企業や技術者の皆様の糧になることを願って、選考結果のご報告といたします。

作品の応募と選考結果

部門	応募	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設計	9 点	1 点	3 点	1 点	該当なし
調査・計画	4 点	該当なし	2 点	該当なし	該当なし
マネジメント	2 点	該当なし	1 点	該当なし	1 点
計	15 点	1 点	6 点	1 点	1 点

選考委員

委員長	阿部 伸太	東京農業大学准教授
副委員長	内藤 英四郎	CLA 理事
委員	五十嵐 康之	国土交通省都市局 公園緑地・景観課課長
委員	石井 ちはる	CLA 技術委員長
委員	卯之原 昇	（一社）日本造園建設業協会 資格制度委員長
委員	木下 剛	千葉大学大学院准教授
委員	篠沢 健太	工学院大学教授
委員	浦田 啓充	（一社）日本公園緑地協会常務理事
委員	塚原 道夫	CLA 広報委員長
委員	諸井 泰司	全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会） 技術部会長